

 評価のポイント

CL- II .ニーズを捉える力（精神科）

[10-2] 精神科における薬物療法の看護 拒薬のある患者への対応

①患者が拒薬する理由についていくつか挙げ、それぞれについて看護師として対応できることは何か考えてみてください

患者には「病識が乏しい」人もいます。患者の病識は薬物療法の取り組み方に大きく影響します。患者がどのような体験や思いを経て現在に至っているのか、自分を取り巻く状況や生きづらさなどをどのように認識しているのか、患者とのかかわりを通じて理解を深めながら病識を持ってもらえるような方策を一緒に考えていくことが大切です。また「被害妄想」や「幻聴」などに左右されて拒薬する人もいます。患者の言動の意味を理解しながら患者の困りごとに焦点を当てたかかわりなどを通じて信頼関係を構築し、少しでも安心感を持ってもらうことが大切になります。そして「耐えがたい副作用」を経験することによって拒薬する人もいます。まずは患者の苦しみに気づき、何が起きているのか理解し、主治医と連携しながら副作用軽減に努めるなど対策を取っていくことが必要になります。

②持効性注射剤（LAI）のメリットとデメリットを挙げ、患者が持効性注射剤による治療を継続するために看護師としてできることは何か考えてみてください

持効性注射剤のメリットは経口服薬せずに済むことによる飲み忘れや服薬中断の防止があげられます。デメリットは注射時の疼痛、副作用対策の難しさがあげられます。持効性注射剤による治療を継続するためには本人の意思が必要になります。注射による治療に同意した時点で、治療に対するモチベーションはあるというストレングスがある、ということなので、きちんと注射を受けられていることをポジティブにフィードバックしながら、本人の治療に対するモチベーションを維持できるように継続的にかかわっていくことが大切になります。